

平成 29 年度 第 6 回  
地域福祉に関する意識調査報告書

平成 30 年 5 月  
岩手県保健福祉部地域福祉課

## I アンケート調査の概要

### 1 調査課題名

地域福祉に関する意識調査

### 2 調査の目的

県では、平成 21 年 3 月に「岩手県地域福祉支援計画」を策定し、「互いに認め合い、共に支え合いながら、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現」を基本理念に掲げ、地域福祉の推進に取り組んできたところです。

本調査は、今後の地域福祉に関する施策の参考にするとともに、平成 30 年度に策定を予定している「岩手県地域福祉支援計画（第 3 期）」の基礎資料とするために実施しました。

### 3 調査期間

平成 30 年 2 月 27 日（火）から 3 月 14 日（水）

### 4 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

### 5 調査対象

平成 29 年度希望郷いわてモニター 276 名

### 6 回答者数

211 名

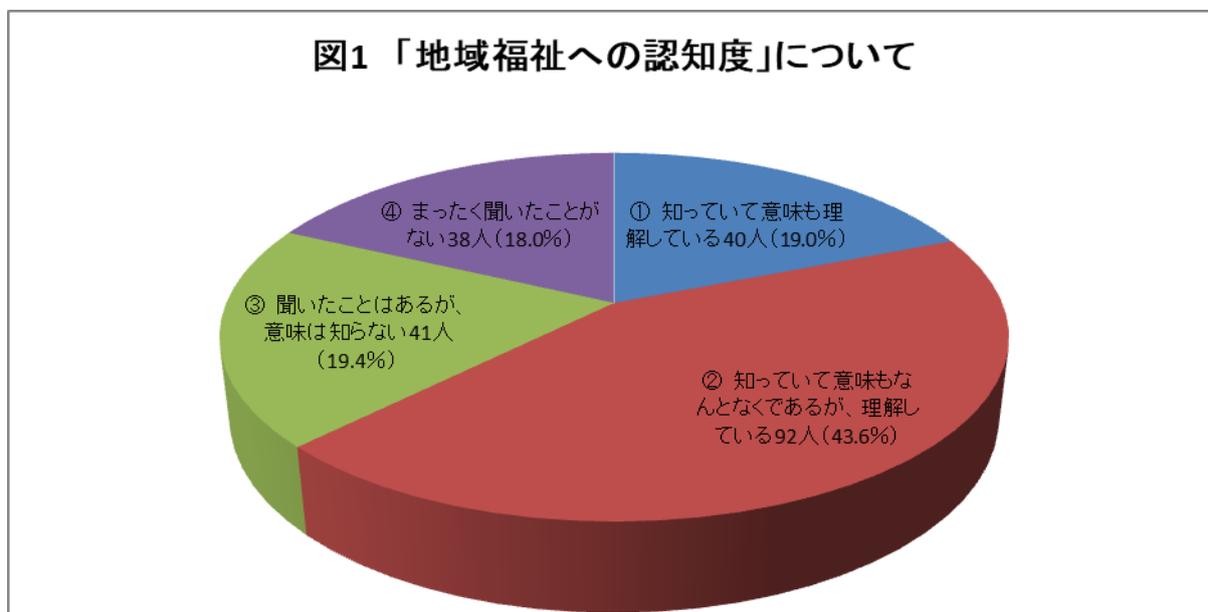
### 7 回答率

76.4%

## Ⅱ アンケート集計結果

問1 あなたは、「地域福祉」という言葉を御存知でしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

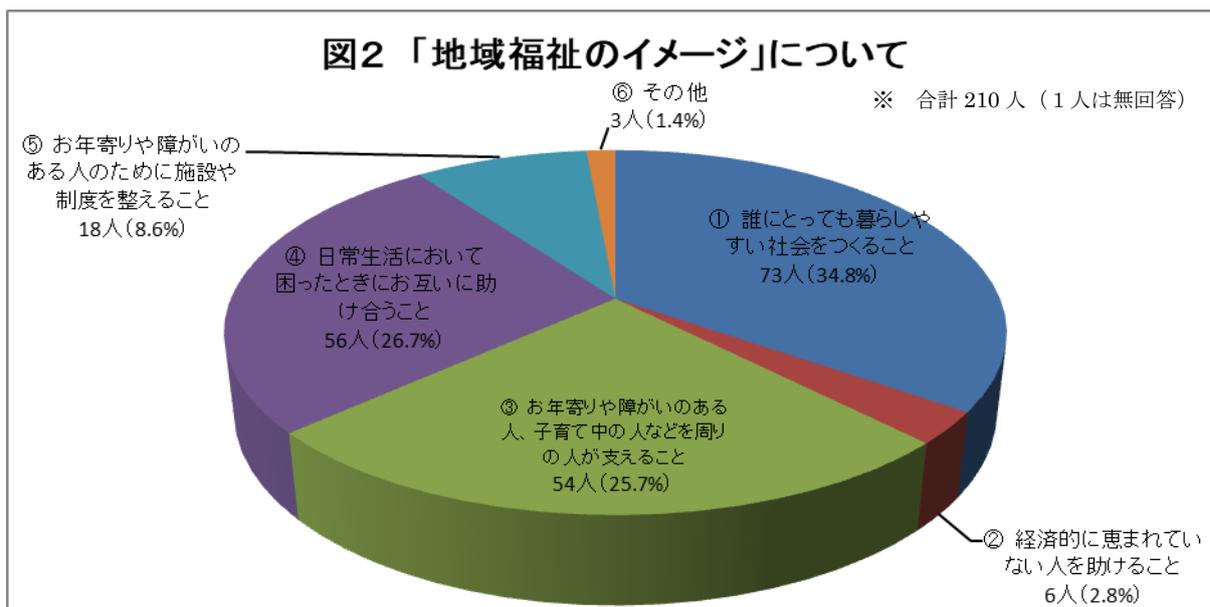
- ① 知っていて意味も理解している
- ② 知っていて意味もなんとなくであるが、理解している
- ③ 聞いたことはあるが、意味は知らない
- ④ まったく聞いたことがない



地域福祉という言葉の意味を「理解している（「なんとなく理解」も含む。）」している方の割合は6割程度であり、依然として4割程度の方々には理解されていない状況にある。

問2 「地域福祉」という言葉から、どのようなイメージを受けますか。最も近いものを1つ選んでください。

- ① 誰にとっても暮らしやすい社会をつくること
- ② 経済的に恵まれていない人を助けること
- ③ お年寄りや障がいのある人、子育て中の人などを周りの人が支えること
- ④ 日常生活において困ったときにお互いに助け合うこと
- ⑤ お年寄りや障がいのある人のために施設や制度を整えること
- ⑥ その他（具体的に御記入ください。）



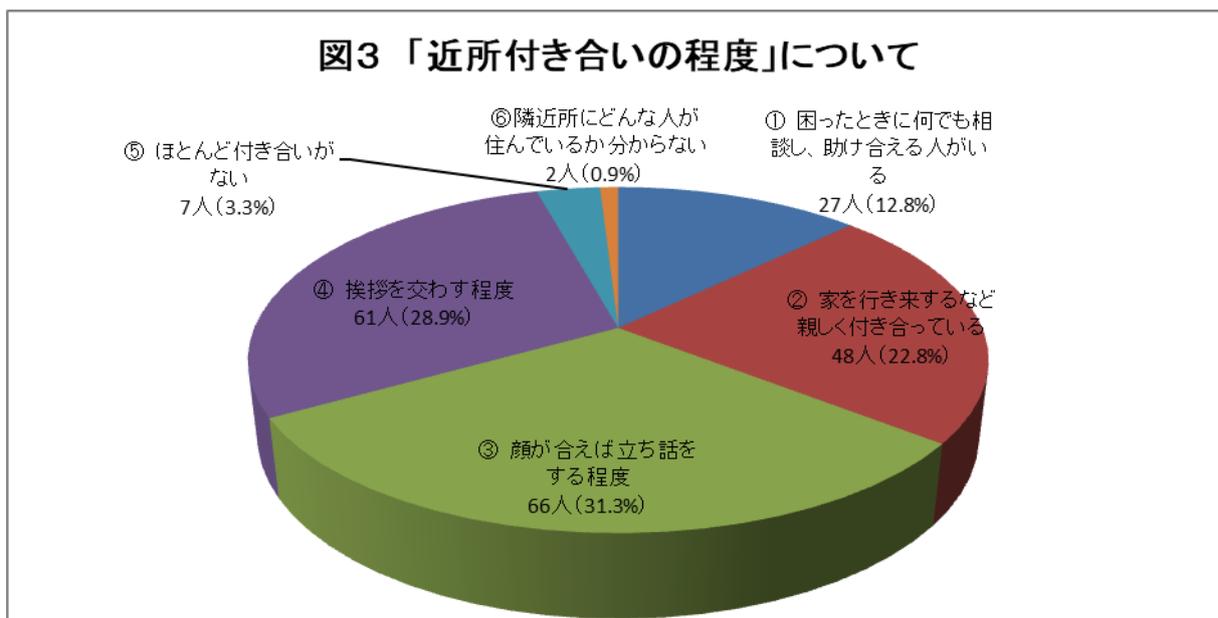
「地域福祉」という言葉に対して、「誰にとっても暮らしやすい社会をつくること」をイメージした方が 34.8%と最も多かったものの、お年寄りや障がいのある方などに対する支援 (25.7%)、施設等の整備 (8.6%) や日常生活における共助 (26.7%) をイメージする方も一定数おり、人それぞれ「地域福祉」に対するイメージが違うことが分かった。

**「その他」の回答**

- ・ 狭い地域、長く農村地帯であるため、プライバシーも何もあるものではないようなイメージがある。
- ・ 社会全体の福祉から、地域単位で絞り込んだ細かい手厚いケアを目指すこと。

問3 近所の方とどの程度のお付き合いをしていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

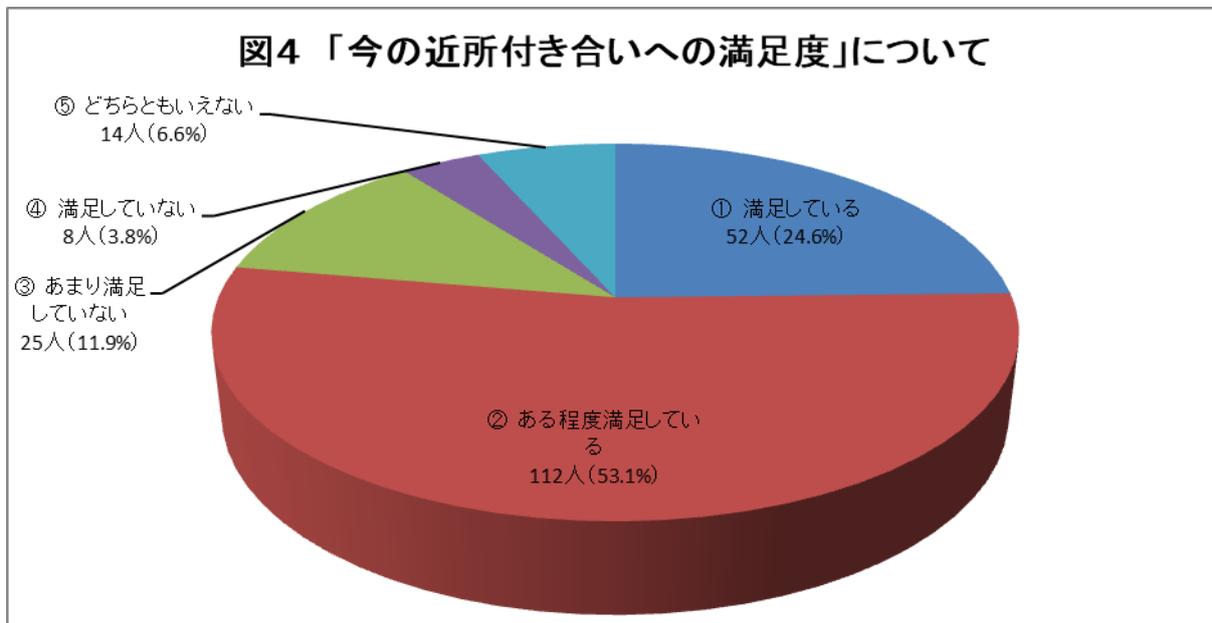
- ① 困ったときに何でも相談し、助け合える人がいる
- ② 家を行き来するなど親しく付き合っている
- ③ 顔が合えば立ち話をする程度
- ④ 挨拶を交わす程度
- ⑤ ほとんど付き合いがない
- ⑥ 隣近所にどんな人が住んでいるか分からない



「ほとんど付き合いがない」、「隣近所にどんな人が住んでいるか分からない」と回答した方は4.2%であり、多くの方が最低でも挨拶を交わす程度の近所付き合いをしていることが分かった。

問4 今の近所付き合いに満足していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

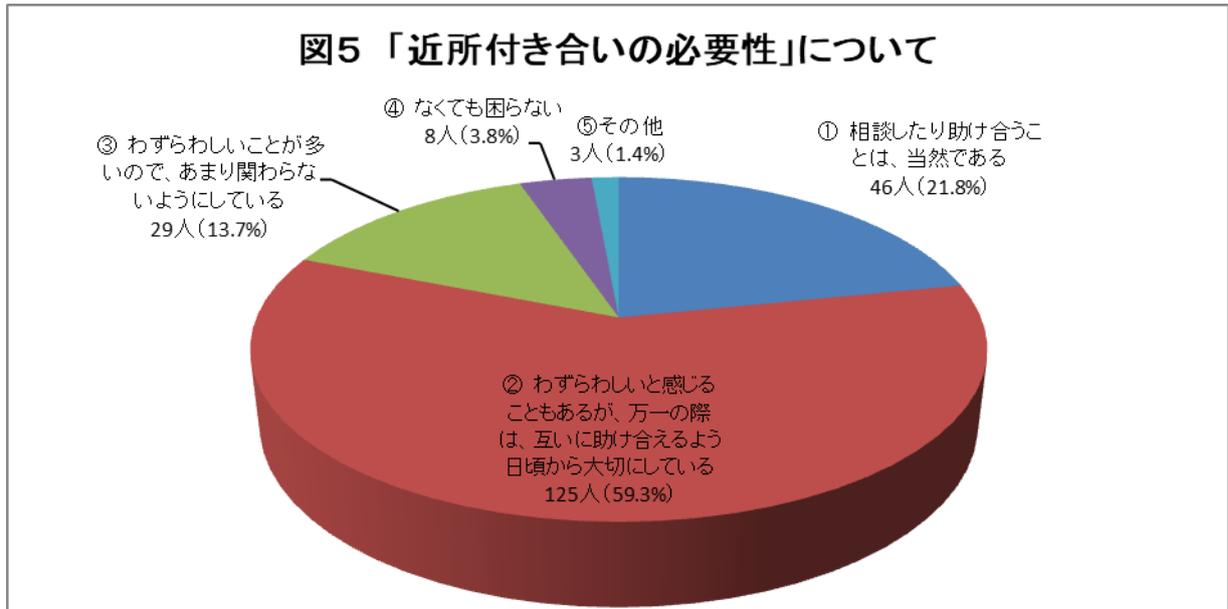
- ① 満足している
- ② ある程度満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ 満足していない
- ⑤ どちらともいえない



現在の近所付き合いに満足している（「ある程度満足している」を含む。）と回答した方が全体の約8割を占めていることが分かった。

問5 近所付き合いについて、どのように考えますか。最も近いものを1つ選んでください。

- ① 相談したり助け合うことは、当然である
- ② わずらわしいと感じることもあるが、万一の際は、互いに助け合えるよう日頃から大切にしている
- ③ わずらわしいことが多いので、あまり関わらないようにしている
- ④ なくても困らない
- ⑤ その他（具体的に御記入ください。）



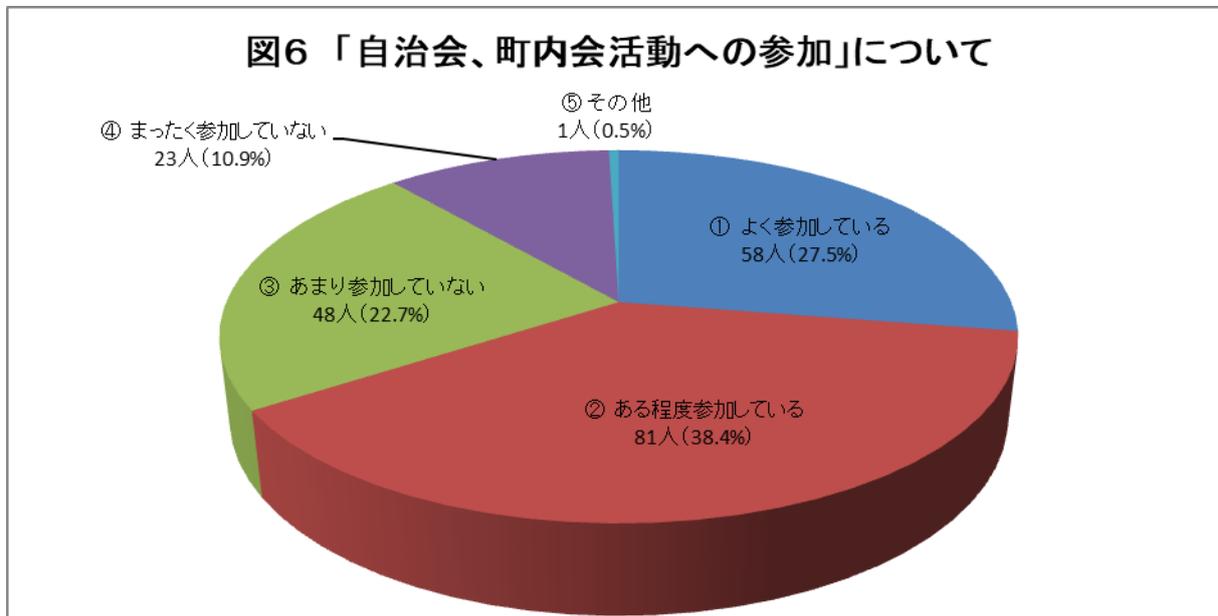
「相談したり助け合うことは、当然である」、「わずらわしいと感じることもあるが、万一の際は、互いに助け合えるよう日頃から大切にしている」と考えている方が8割程度を占めており、多くの方が近所付き合いの必要性を感じている。一方、2割程度の方が近所付き合いの必要性を感じていないことが分かった。

**「その他」の回答**

- ・ 何かあったときはもちろん助け合うが、あまり干渉しないようにしたい。
- ・ ほとんど付き合いがない。

問6 自治会・町内会活動に参加していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

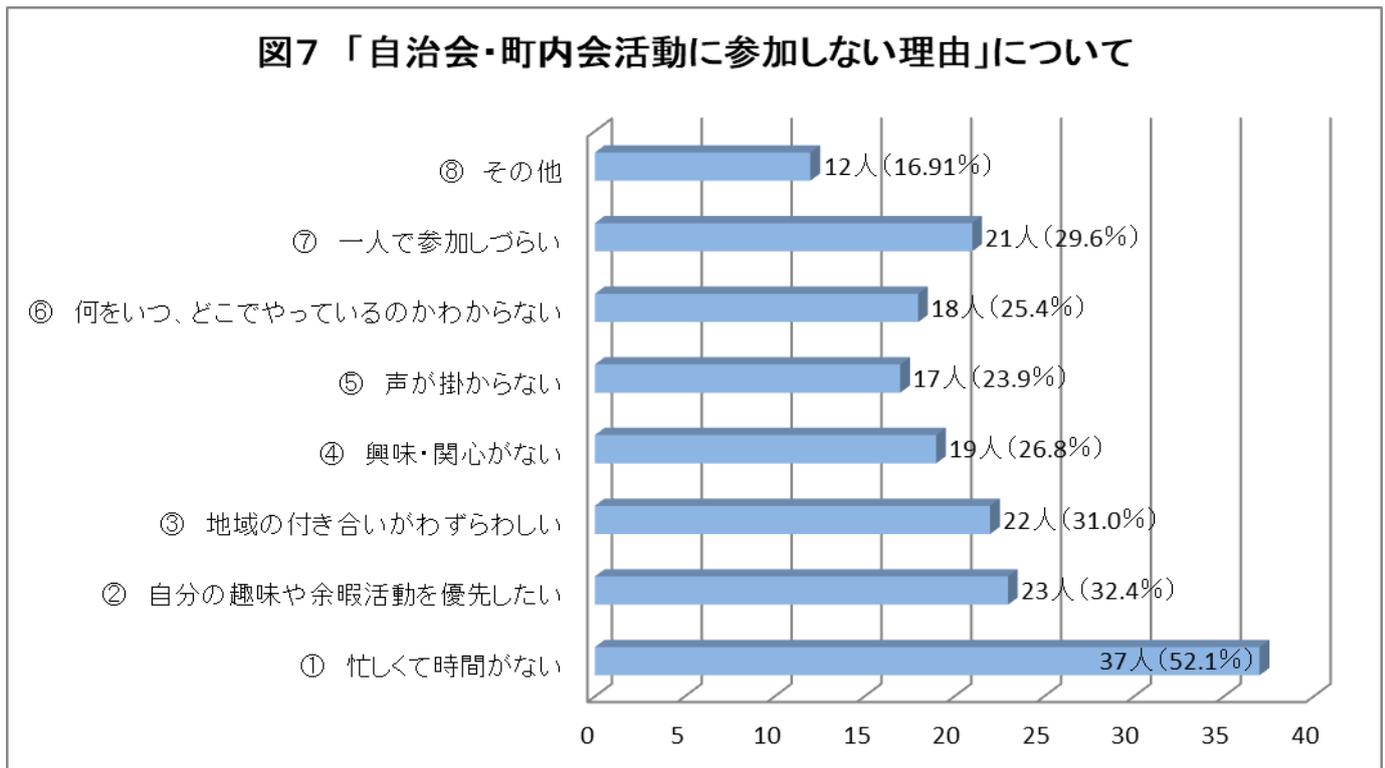
- ① よく参加している（①を選んだ方は、問8にお進みください。）
- ② ある程度参加している（②を選んだ方は、問8にお進みください。）
- ③ あまり参加していない（③を選んだ方は、問7にお進みください。）
- ④ まったく参加していない（④を選んだ方は、問7にお進みください。）



自治会・町内会活動に参加している方（「ある程度参加している」を含む。）が6割程度を占めている一方、4割程度の方はあまり参加していないことが分かった。

問7 問6で③又は④を選択された方にお聞きします。理由として、あてはまるものを全て選んでください。

- ① 忙しくて時間がない
- ② 自分の趣味や余暇活動を優先したい
- ③ 地域の付き合いがわずらわしい
- ④ 興味・関心がない
- ⑤ 声が掛からない
- ⑥ 何をいつ、どこでやっているのかわからない
- ⑦ 一人で参加しづらい
- ⑧ その他（具体的に御記入ください。）



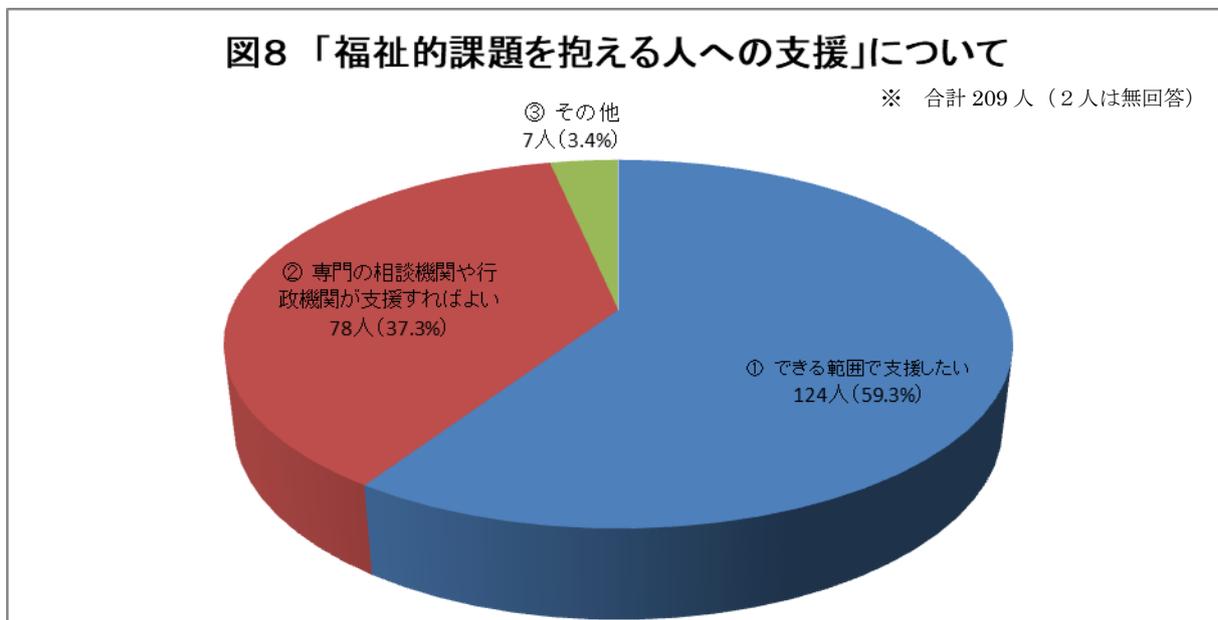
自治会・町内会活動にあまり参加しない方（質問6で③又は④を選択した71人）のうち「興味・関心がない」と回答した方は26.8%という結果であり、7割以上の方が興味や関心があるものの何らかの理由で活動に参加できていないことが分かった。

#### 「その他」の回答

- ・ 引っ越したばかり。
- ・ 同じ世帯の者が参加しているので、自分が出なくても良いから。
- ・ 現在は、仕事や家事等でほとんど参加できていないが、声が掛かったときやお手伝いできるときは協力するようにしている。
- ・ 仕事をしているので時間が合わない。
- ・ 平日は仕事をしているので、参加できません。
- ・ 足が悪く(身障者)、母も脳梗塞で身障者なので、地域の草刈りに参加が困難。
- ・ 草取りなどの作業はあるが、高齢者が多いため、朝が早くて参加できない。
- ・ 災害住宅なので、地域としてまとまりがない。
- ・ 土日祝日も仕事をしているので、参加できないことが多い。
- ・ 嫁に来たばかりでまだ何をどこでやっているかわからないことと、乳児がいるのであまり外に出ない。
- ・ 子どもがいないので地域に密着した活動は遠い存在のように感じるし、ライフスタイルに合わない。ただし、ルールを守るように心掛けるようにしている。
- ・ 仕事の勤務時間が深夜専門のため、参加できる時間の都合がない。
- ・ よそから来たため疎外感がある。
- ・ 住んでいる地域活動よりも、実家のある地域活動に参加することが多い。

**問8** 近所に住んでいる、何らかの生活・福祉課題を抱える方への支援について、どのように考えますか。最も近いものを1つ選んでください。

- ① できる範囲で支援したい（①を選んだ方は、問9にお進みください。）
- ② 専門の相談機関や行政機関（高齢者介護・子育て等の各種支援センターや役所・役場等）が支援すればよい（②を選んだ方は、問10にお進みください。）
- ③ その他（具体的に御記入ください。）（③を選んだ方は、問10にお進みください。）



「できる範囲で支援したい」と回答した方が約6割を占めており、多くの方が福祉的課題を抱える人を自ら支えたいと考えていることが分かった。

**「その他」の回答**

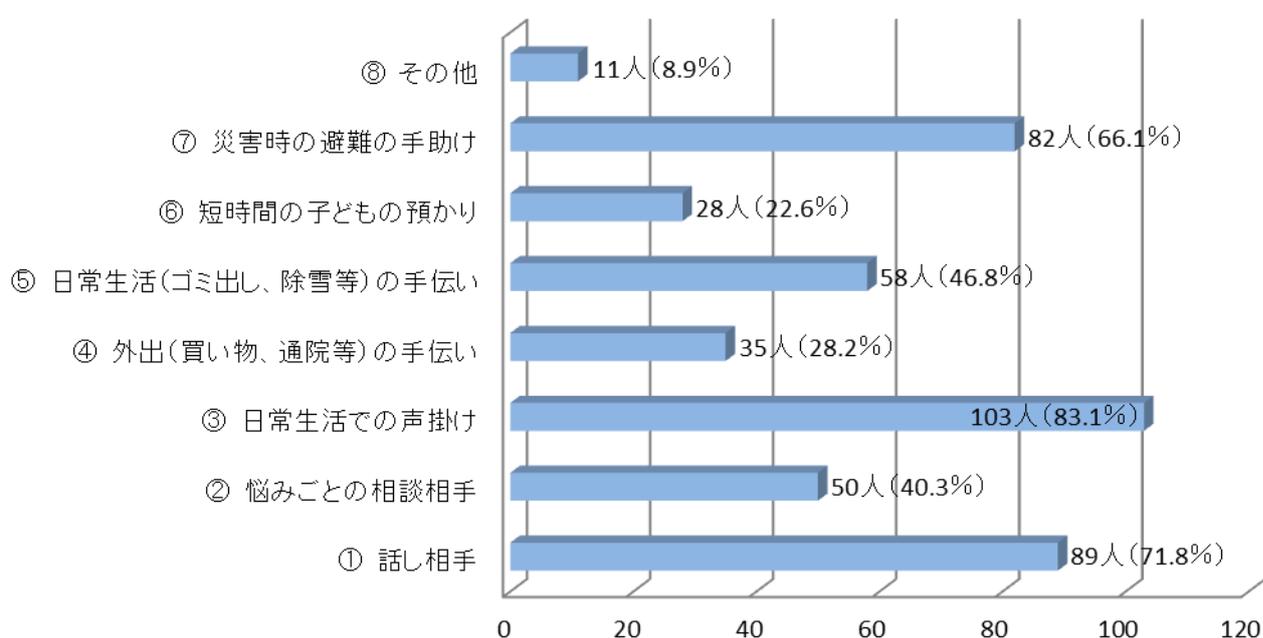
- ・ 近所に対象となる方はいないが、一人で暮らしている方がいるので支援が必要な時にはできる範囲で手助けしたいと思っている。
- ・ 支援できるものとできないものがあり、その範囲で手伝う程度。
- ・ 引越してきてから5年位であまり内情がわからないので支援まではしていない。
- ・ 地域だと親戚関係などが多くその全ての付き合いが良好でない場合もあり、他者が出て手助けするとお節介やきにも取られたり、その親戚の話を地元でない人が喋ったりすると話がやっかいになったりと、どの程度がお手伝いかと考えます。足の不自由な方のゴミ捨てをやったりとささやかなお手伝いくらいしかできません。
- ・ そのような課題を抱えている方が本当に他人の支援を求めているか疑問。

問9 問8で①を選択された方にお聞きします。

あなたが協力できると思う支援について、あてはまるものを全て選んでください。

- ① 話し相手
- ② 悩みごとの相談相手
- ③ 日常生活での声掛け
- ④ 外出（買い物、通院等）の手伝い
- ⑤ 日常生活（ゴミ出し、除雪等）の手伝い
- ⑥ 短時間の子どもの預かり
- ⑦ 災害時の避難の手助け
- ⑧ その他（具体的に御記入ください。）

図9 「福祉課題を抱える人へ支援できること」について



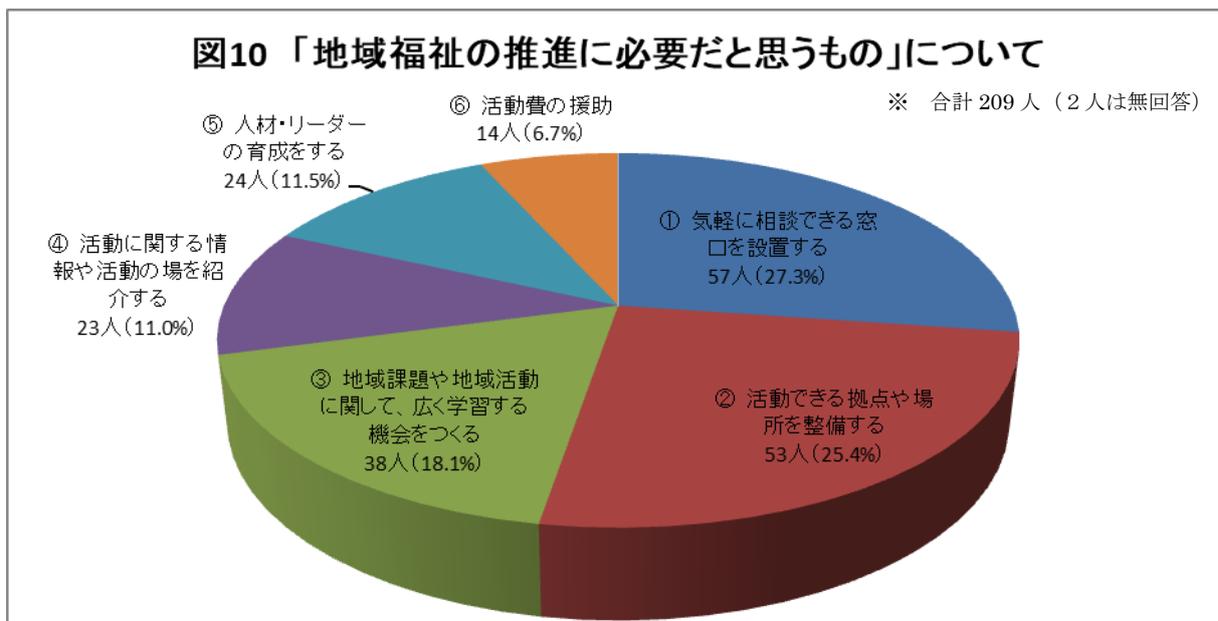
「できる範囲で支援したい」と思っている方（質問8で①と回答した124人）の大半が日常生活や災害時の介助、声掛けにより支援したいと考えていることが分かった。

#### 「その他」の回答

- ・ 庭の草取り
- ・ 町内会役員をしているので、様々な課題に関わり、協力していきたい。
- ・ おすそわけ、おみやげ、サークルなどで、車に同乗させている。
- ・ 介護
- ・ 犬の散歩(かみぐせのない犬に限り)。猫の餌やり。
- ・ お年寄りが多い地域なので、毎日電気が付くが、小屋など電気がつけっぱなしになっていないか気を付けてみるようにしている。
- ・ 動物を飼っている高齢者が入院中、そのペットの面倒をみたり、飼い主が亡くなられた後も自宅で引き取ったり、ボランティアでお世話しています。
- ・ 自分では作らず買った物ばかり食べている人への手料理の御裾分け。
- ・ 自分の能力を活かして行政等ができないサービス、ケアを行う。

問 10 今後、地域の助け合いや福祉活動の輪を広げていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

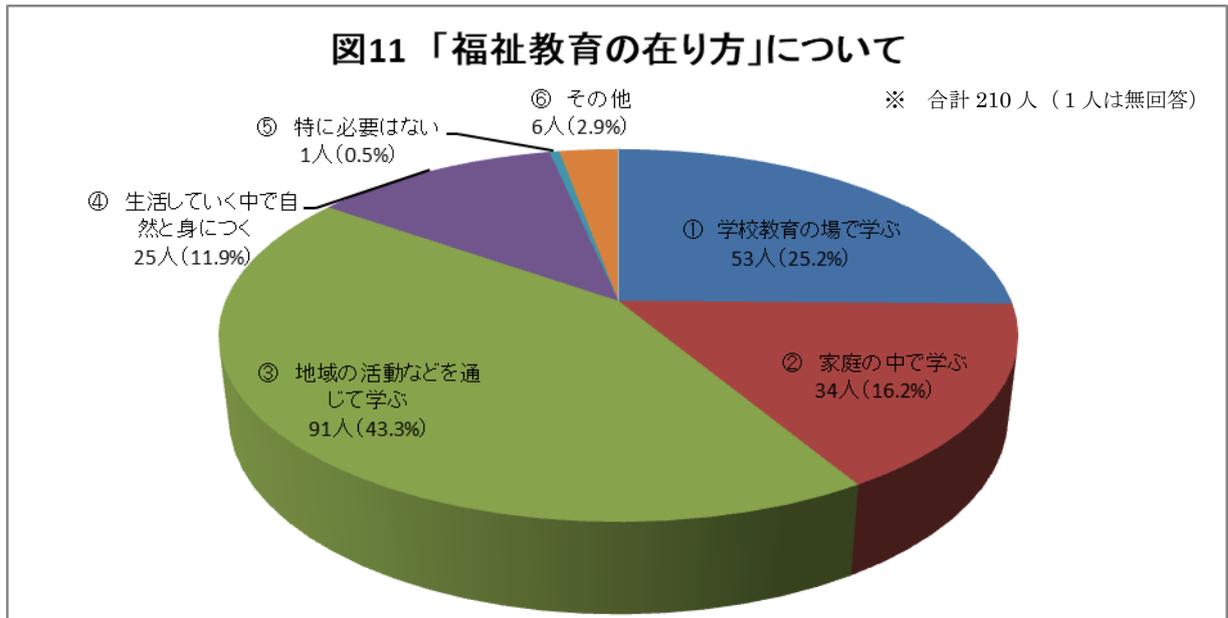
- ① 気軽に相談できる窓口を設置する
- ② 活動できる拠点や場所を整備する
- ③ 地域課題や地域活動に関して、広く学習する機会をつくる
- ④ 活動に関する情報や活動の場を紹介する
- ⑤ 人材・リーダーの育成をする
- ⑥ 活動費の援助



半数以上の方が相談窓口や活動場所への整備など、活動に必要な環境の整備を求めていることが分かった。

問 11 子どもたちに対する福祉教育（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育）について、どのように行うべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- ① 学校教育の場で学ぶ
- ② 家庭の中で学ぶ
- ③ 地域の活動などを通じて学ぶ
- ④ 生活していく中で自然と身につく
- ⑤ 特に必要はない
- ⑥ その他（具体的に御記入ください。）



学校教育以外の日常生活の中で福祉教育を行うべきと考えている方が全体の7割（②16.2%、③43.3%、④11.9%）を占めた。

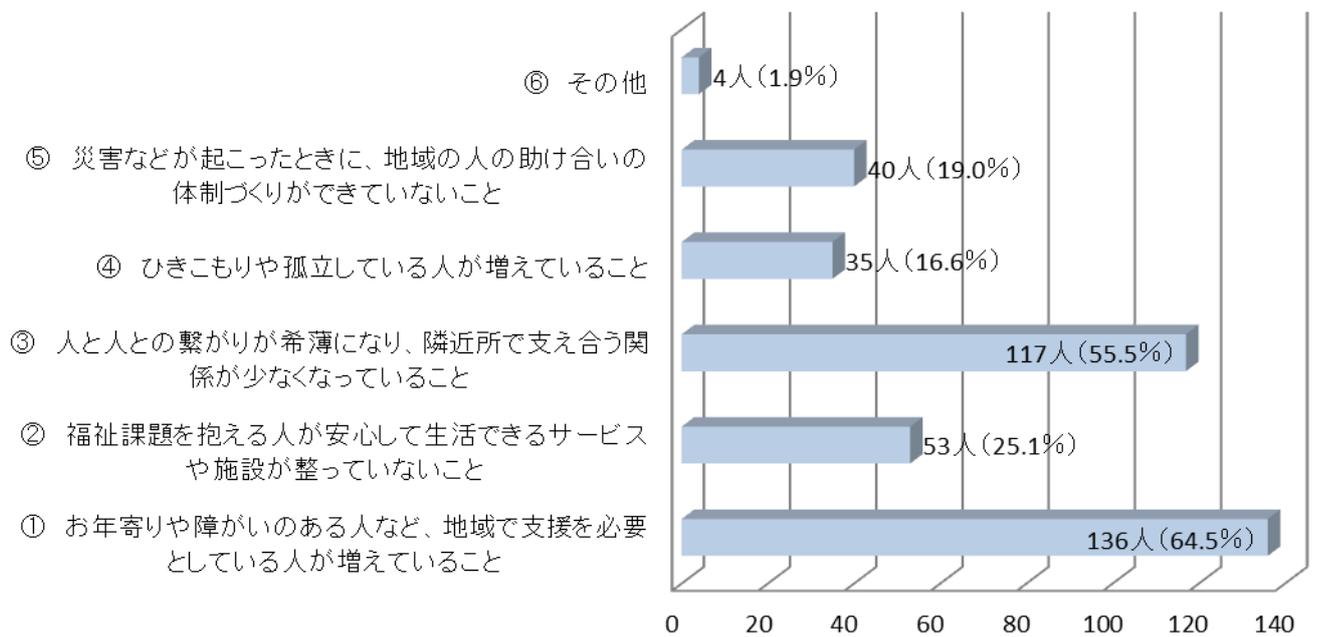
**「その他」の回答**

- ・ 本来なら家庭での教育と思いますが、今の世代では無理と感じます。学校教育の中での道徳で学ぶのがよいと考えます。
- ・ ①～⑤どれでも無理、今ある地域の体制、活動を利用する。例えば消防点検活動の際、必ず一声かけるシステムを作る。実現した班にはポイントを与える etc など。
- ・ 地域の福祉活動実践組織と活動などで交流し、体験・交流し学んでいくことが大事と思います。
- ・ ①②③④全部で。
- ・ 学校、家庭、地域、生活の中で自然に学ばせること。
- ・ 一つでは選べない、学校・家庭・地域・生活全ての中で育つものとする。

問 12 あなたの住んでいる地域の福祉課題は何だと思いませんか。あてはまるものを2つまで選んでください。

- ① お年寄りや障がいのある人など、地域で支援を必要としている人が増えていること
- ② 福祉課題を抱える人が安心して生活できるサービスや施設が整っていないこと
- ③ 人と人との繋がりが希薄になり、隣近所で支え合う関係が少なくなっていること
- ④ ひきこもりや孤立している人が増えていること
- ⑤ 災害などが起こったときに、地域の人の助け合いの体制づくりができていないこと
- ⑥ その他（具体的に御記入ください。）

図12 「住んでいる地域の福祉課題」について



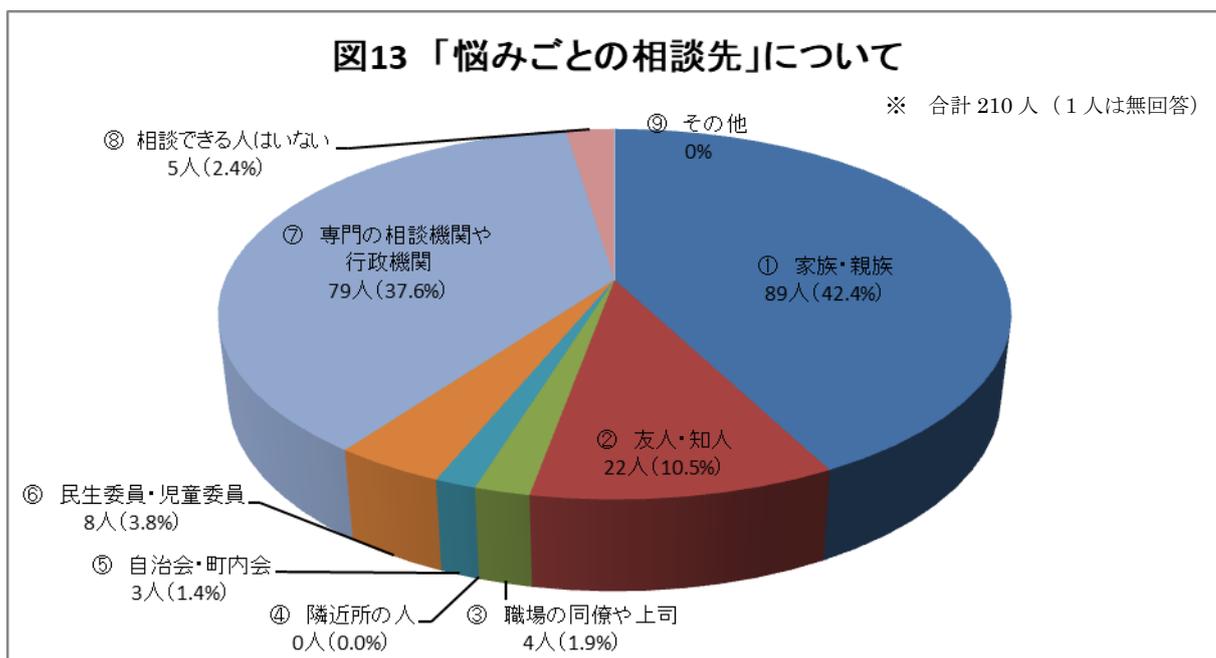
お年寄りや障がいのある方など、支援を必要としている方が増えていることを課題として挙げる方が6割を超える一方で、その支援の前提となる良好な人間関係が構築できていないことを課題として挙げる方も多かった。

「その他」の回答

- ・ 過疎化、高齢化に伴う買い物、通院、ゴミ出し、除雪等の支援。
- ・ 高齢者世帯の増加は、後継者の独身化による将来不安。
- ・ 一人暮らしの方(少し認知症かなと思える人)が増えて、生活は大丈夫かな？心配です。個人情報、プライバシーの問題もあり、立ち入ることも近所で話題にすることも難しいと感じている。
- ・ 老人が多すぎて無理。
- ・ 民生委員が機能していない。
- ・ 老人だけの世帯が多い。支援があっても窓口までいけない。将来に不安がある。
- ・ 以前住んでいたところより現在のほうが地域福祉が理想的に整っていると思います。

問 13 自分では解決できない福祉に関する相談や悩みごとがあった場合、まずはどのようなところに相談しますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- ① 家族・親族
- ② 友人・知人
- ③ 職場の同僚や上司
- ④ 隣近所の人
- ⑤ 自治会・町内会
- ⑥ 民生委員・児童委員
- ⑦ 専門の相談機関や行政機関  
(高齢者介護・子育て等の各種支援センターや役所・役場、社会福祉協議会など)
- ⑧ 相談できる人はいない
- ⑨ その他 (具体的に御記入ください。)

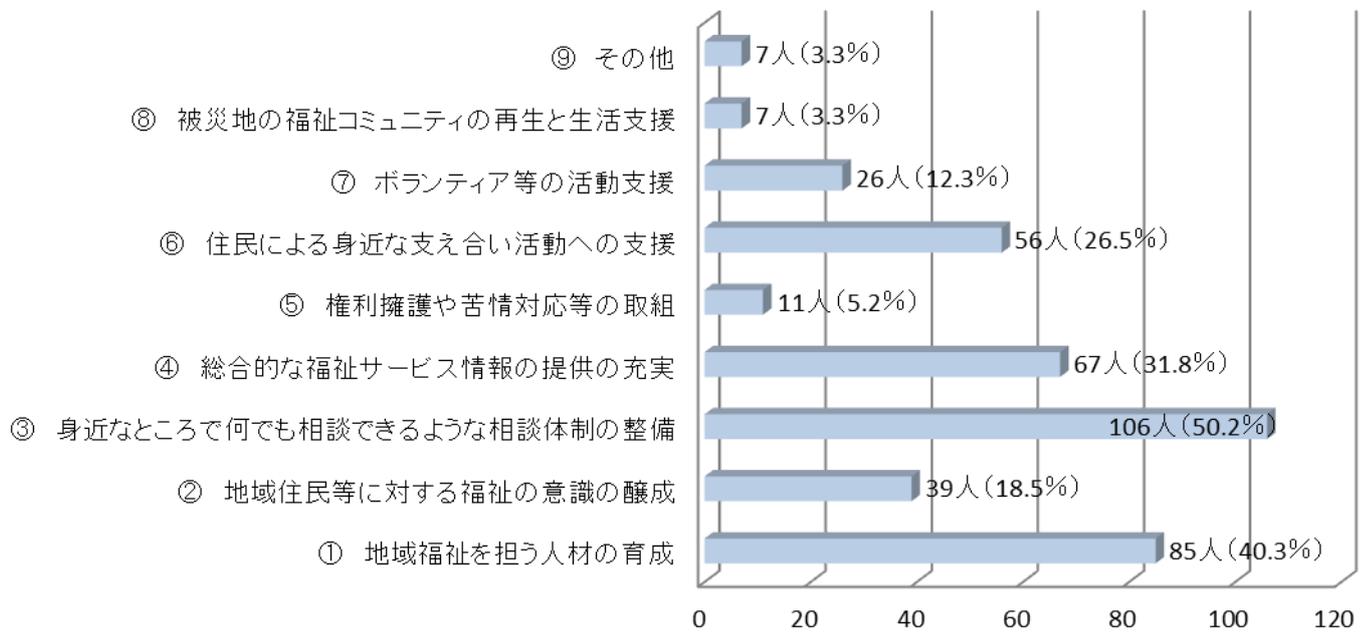


福祉に関する相談や悩みごとを家族や友人など身近な人に相談するという方が半数を占め、専門機関等に相談したいと考える方は少なかった。

**問 14** 地域福祉を推進するために、行政はどのような分野を優先して取り組むべきだと思いますか。  
あてはまるものを2つまで選んでください。

- ① 地域福祉を担う人材の育成
- ② 地域住民等に対する福祉の意識の醸成
- ③ 身近なところで何でも相談できるような相談体制の整備
- ④ 総合的な福祉サービス情報の提供の充実
- ⑤ 権利擁護や苦情対応等の取組
- ⑥ 住民による身近な支え合い活動への支援
- ⑦ ボランティア等の活動支援
- ⑧ 被災地の福祉コミュニティの再生と生活支援
- ⑨ その他（具体的に御記入ください。）

**図14 「地域福祉推進のため行政が取り組むべきこと」について**



多くの方が地域福祉を担う人材の育成（①40.3%）と相談しやすい窓口の整備（③50.2%）を求めていることが分かった。

問 15 その他、地域福祉について、御意見等ありましたら御記入ください。

1	自治会活動の中で民生委員さんからお話しを聞いたり、子ども会活動の中にも地域の人たちがもっと関わりを持つことが必要だと思います。
2	民生委員を8年経験したことがあります。悩みを何でも話せる地域にするには難しいものがありました。地域の状況をわかってから進めないと、孤立させてしまうこともあります。丁寧に関わりを作っていた私にとっては、とても大変だと思った経験です。全員を助けるというのも荷の重いものでした。地域の人々が同じように地域福祉に関心を持っていれば、きっと良い社会になると思います。
3	今は傾聴ボランティアに参加し活動していますが、たくさんの人が集まることはない。でも、「話そう」と思い参加する程度の認知症の人たちが集まり、たわいもないおしゃべりをし、笑ったり「また、次回楽しみねー」と言って別れます。会話の内容は他言、多言は禁止です。皆さん守っています。(ボランティアの方々)
4	この地域に住んで良かったと実感できることが、地域福祉だと思います。そのためには、地域コミュニティ力を増進させることが大事です。その取組の支援を行政に求めます。
5	民生委員がもう少し、活動していただきたい。
6	地域の医療機関全て、民生委員や消防団などで1つの組織をつくり、平時はそれぞれの仕事をしつつ、有事の際は「長」から必要な人材、機関へ連絡を入れ、見回りや手助け、訪問、助言をするなどの体制を作っておけば、災害時にも機能するし、相談窓口にもなると思います。いろいろな人が関わることで、得意分野で活躍できるし、関わり合うことでお互いを知ることができ、自然と助け合いの気運が生まれていくと思います。組織はその程度ですが、最初の声掛けに行政が関わってくれば形になると思う。
7	困った人がいるときは、個人の生き方を尊重しながら、助け合うことが大事だと思います。私も小さなことでも支援出来たらと思っています。
8	住民の心、役所の心など、本当のいたわりがどこにあるのか、何なのかを見極めて、福祉を語りたい。
9	思いやりと助け合いは人との信頼関係をもとに成り立つと思うので、まずは住民の意識の問題でもあると思います。それをどうやって構築していったら良いかが課題であると考えます。(現代ではプライバシーなど難しい面もあるので、一概に言えないことも…)
10	地域福祉を充実させるためには、やはり公的資金と人材が必要だと思う。大変なことではあるが、行く道に安心があればと願う。
11	60歳以上の方の働き方により、地域の担い手として活動する方が減ってきている。(行政役員を含む)
12	福祉と一言で言っても、あまりにも分野が広い。一番最近思うのは、お年寄りへの地域住民の「お手伝い」。買い物やゴミ捨てといった「簡単なこと」とくくられる手伝いも、近所の人だからこそ「いや」と思う人や「恥ずかしい」と思う人もいる。行政や福祉事務所で、手が回らないと言って、資格を持たない一般住民に手伝わせて個人情報を開示するのも理解しがたい。何でも町内会、コミュニティと言うのはどうかと思う。民生委員も大変であろうが、もう少し手当を支給して活動の幅を広げてほしい。
13	障がいや高齢の一人暮らし等で日常生活に困難を来している人には、地域で民生委員の方々が見回り等でケアを行っているが、少ない人数で多くの世帯を担当するなど、大変な苦勞をされていると思う。手軽に相談できる窓口やその機会を増やしたり、隣近所での共助の形を作っていくことなど必要であると思う。
14	「情けは人の為ならず」の正しい意味を理解し、お互いさまの気持ちを持って生活していけたらと思う。うちで義父母の介護が同時に始まったとき、隣家のおばあちゃんが、家の草取りに来てくれた。主人や子どもたちがいない日中、辛くて自分の方が参ってしまい、早く死にたいと思っていたとき、他人の優しさに助けられた。隣のおばあちゃんは「昔世話になったから」と言ってそっと来てきれいにして帰っていきました。私もこの恩返しをいつか誰かにしたいと考えて生き

	ています。でも地域団体が補助金目当てに実績づくりをわざと行い、あとは知らんぷりというのは心が痛みます。お金の使い方、おかしいことだらけです。
15	今のみならず、将来も子どもから高齢者に至るまで、福祉社会対象の社会でもある。こうした社会環境についての意識づけを早急に行う必要がある。
16	地域福祉、難しい。私も今は一人で何でもできるが、いずれ年をとれば周囲の方の力を借りなければならなくなる。でも周囲に若い人がいればでしょう。このままでは年寄りしかいなくなる。
17	住民が少ない地域こそ重点的に対応してほしい。都市部はどこでも何でも恵まれている。そもそもの頭数も多い。田舎は不平等感が多い。
18	一人暮らしの高齢者が増えているので、その方へのより一層の支援充実が必要。
19	各々の地域で抱えている問題は違うので、行政はどこまで理解し、把握しているのか？住民に丸投げですか？近隣同士のつながりも大切ですが、行政とのつながりも大切なのでは？
20	自分も高齢期に入ってきているので、まずは自分が迷惑をかけずに自立して生きていけるように努力したい。プライバシーの関係もあり、なかなか個人的には悩みも話せないことが多いので、近くの人でなく、公共の場で相談できる機会を多くしたい。
21	当地区の高齢者又は一人暮らしの人は、近隣との交流が少なく、家族と同居をしていますが日中は一人で過ごすことが多く、前は「お茶っこ会」があつて楽しみにしていたのですが、予算の都合で中止になり、ほとんど家で過ごしています。出たくても出れないというのが現状。地域でボランティアで支援している人もいますが、受けれるのは町中心、過疎化した離れたところに住んでいる人は何の支援も受けられない。地元の人でも大変だろうと思っても自分のことで精いっぱい。大雪が降れば、自分の家から道路までの除雪も自分たちの仕事、病院、買い物も困難をきたしている。気軽に相談できる窓口にし、より利用できるよう周知をしてあげられる人材が身近にいてほしいと思います。
22	暮らしていく中で、様々な生活課題が発生しているわけですが、一人ひとりの努力と地域住民同士の助け合い精神、さらには公的機関との連携を密にし、一体となった取組が必要と思われれます。
23	まだ経験がないのですが、相談しやすい窓口があり聞いていただける環境が整っていると、安心して過ごせると思う。改まって何かというよりも、日々お互い思いやりを持ってどんな方であろうと接することができるような心育てをしていきたいと思う。(福祉だけではなく、教育も、全て優しさが必要かと思ひます。)
24	「地域福祉」は初めて耳にしますが、質問内容を読みますと、大事なことばかり。私の考えは岩手も高齢者の多い県。地域で休畑を借り、子どもたちと一緒に、野菜、いちご等を植え、楽しみを与えたいかがでしょうか。収穫は参加者全員で「収穫祭」。楽しいと思います。全ての費用は県又は各市町村で負担する。もしこれが実現したとすれば、「健康寿命」につながるのではないのでしょうか。
25	地域福祉の範囲が広すぎることで、地域社会がまだ少子高齢化の問題を理解していない。
26	自治会に積極的に参加することで、近隣の人柄を知ることもあります。人前に出て、色々接触した方が相談できる状況が作りやすいと思います。
27	人口減、高齢化の中で、公務員等が退職後、地域の中でマンパワーを発揮することで地域福祉のみならず、地域力の底上げにつながることを期待している。
28	プライバシーが守られますというが、漏れるのが現実。相談窓口に行っただけで、・・・さんが来ていたよといううわさが広がります。地域福祉の制度があつても利用しにくいのではないのでしょうか。
29	身近で相談できる人材の育成。特に、口外する凶々しい、いろんな役職を持っている方は多忙ですので、遠慮していただきたい。私の町内に民生委員がいますが、フルタイムで仕事をしている。車、自転車に乗れない。相談しようと思わない。今、なり手がいないと言うけど、お願いすればいい人がいっぱいいる。

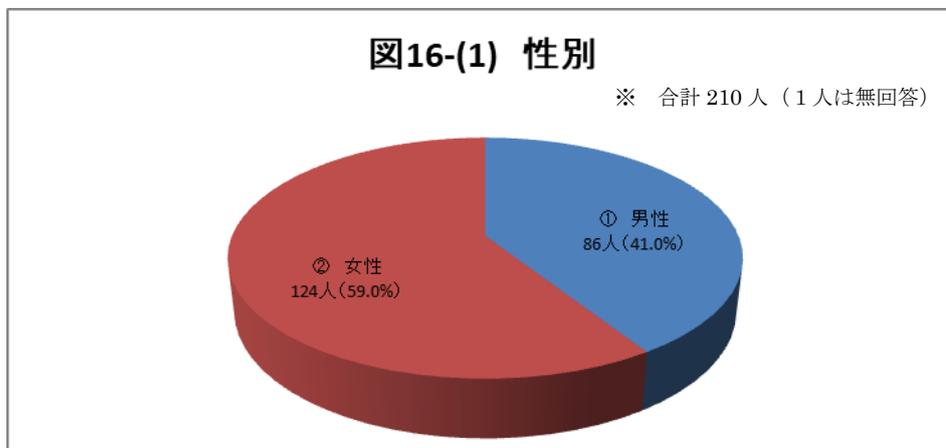
30	デイケアに通えない年寄りがいる。誰の言うことも聞かず、時間関係なく徘徊している。周りの人たちも声をかけてくれますが、危険で心配です。
31	近くに一人暮らしの高齢者がいます。会えば話をしたり、なるべく助けになりたいと思っています。同じ地域には、どんどん高齢者が増えていて、子どもは少なくなっています。デイサービスの車が来るので、高齢者や障がいを持っている方がいることはわかりますが、顔を合わせる機会はまずありません。困ったときに何でも相談できる、皆が安心して暮らせるというのは理想ですが、自分から訴えることができない方や、それを拒否される方には地域の住民として、どう関わっていけばいいのなかなと思います。子どもも高齢者も障がい者も安心して生活できる地域づくりが実現できるよう、自分も少しでも役に立ちたいと思います。
32	高齢世帯や一人暮らしのお年寄りの雪かきを中学生や町内会で肩代わりしたり、高齢者が小さな子どもたちに、昔の遊びを教えたりする、世代間の交流や、高齢者施設の慰問を行ったりして、相互に支え合う地域になればと思っています。子供会や町内会がうまく機能して地域福祉に貢献できるようになれば地域住民も安心だと思います。
33	行政(県)では、基本理念を掲げ推進に取り組んでいることは、大変ありがたく感じております。大切なことは、住民によるご近所同士の支え合いがもっと目に見えてほしいと思うこの頃です。一人暮らしの高齢者は、日常生活で不便と書いていても福祉の方で色々なサービス、窓口相談できることが分かっている、必要なものは、移動販売車が来てくれることがありがたい町内もあるだろうし、交通路線も何か細やかな支援を検討していただけたらと思うときもあります。このアンケートを機会に、今よりもっと地域福祉に関心を寄せてみたいと思います。
34	例えば、夫婦合算しても年金が生活保護を下回るような家庭に資金的な援助(例えば住宅の補修、入院時の身の回りの世話)を行えるシステムの構築。年配者には、入院費の心配や、入院で残された老人の世話を心配して入院を拒み、結果重症化する人などいるため。
35	支援したいと思い、声掛けをしても断られる。なんでだろうと考えるが全くわからない。その方は5人の子どもがいるが、県外に住んでおり、なかなか会いに帰って来ないようです。もう一人の方は、子どものいない方ですが、他人には頼らないというすごく強い心の持ち主なのです。自分はおせっかいなのかなと思っています。
36	地域福祉の理念はとても良い考え方で理想だとは思いますが、高齢化社会におきまして、現実はとても難しいものがあると思う。家に老人がいる場合、老人だけの生活とか支援できる余裕はなく、何でも若者にとという考えは負担が大きすぎます。行政による支援が必要だと思います。
37	よく福祉や介護という言葉聞くけど、ケアマネージャーはなぜいらっしゃるのか、また、自分の場合、足の身障者のために頼んで道具を借りているけど、礼儀ができていないマネージャーもいると思う。
38	昔から住んでいる人たちと、新しく引っ越して来た人たちがうまく行ってなかったりします。仲よくしようとしても、古いしきたりで揉めることが多い。特に震災後、沿岸から引っ越しした方々と問題が起きて、沿岸からのご家族が別の所へ行ってしまいました。人と人の付き合いは本当に難しいです。
39	一概に地域福祉と言われても範囲が広く、見解に統一が必要だ。もっとわかりやすく理解できるように質問してほしい。例えば、道を尋ねられたらその人の身になり、図を描くなり親切、丁寧にすることだと思うが、いかがか。毎月25日に30人近くが集まり、情報交換をしている。新聞のボイス欄など参考にしている。
40	毎年1~2回、定点観測で途上国を回っているが、日本にいるときよりも会話が早く、顔も覚えられているように思える。貧しい国は公的な社会保障や安全保障が貧弱なため、大家族や近所の人と協力しなければ生きていけないためだろうと推測する。日本から近所付き合いや親戚付き合いが消えていったのは、公的福祉や警察が優秀だからではないかと思う。
41	ネットなどでも相談しやすい環境を整えば良いと思います。

42	「地域福祉の時代」と言われているが、高齢化率5割近くにまで接近している我が町の現状では、支える人が減少。70歳前後のボランティアが中心。幸い地域コミュニティが良く、お互いが見守っている状態である。気楽に集まれる場所があればいい。福祉事業にもう少し支援金があればいい。
43	老人が多すぎて怖い。介護職や葬祭センターの仕事ばかりが求人にでている。

問16 あなた自身のことについてお聞きします。あてはまるものを選んでください。

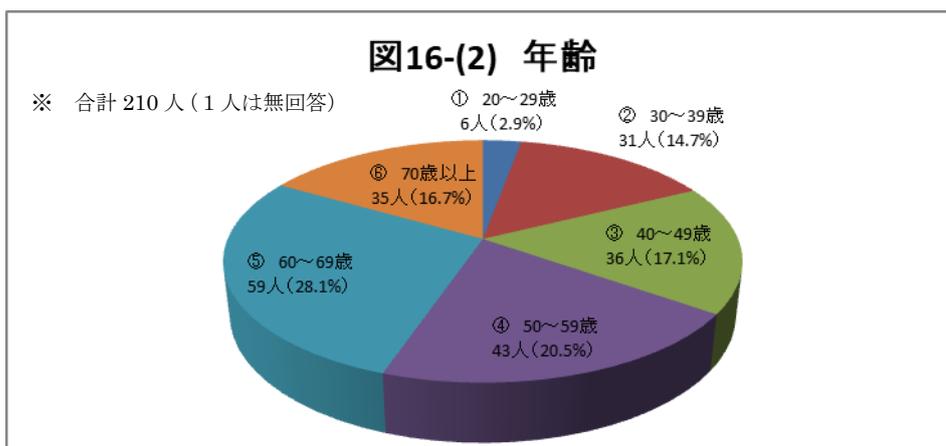
(1) 性別

- ① 男 ② 女



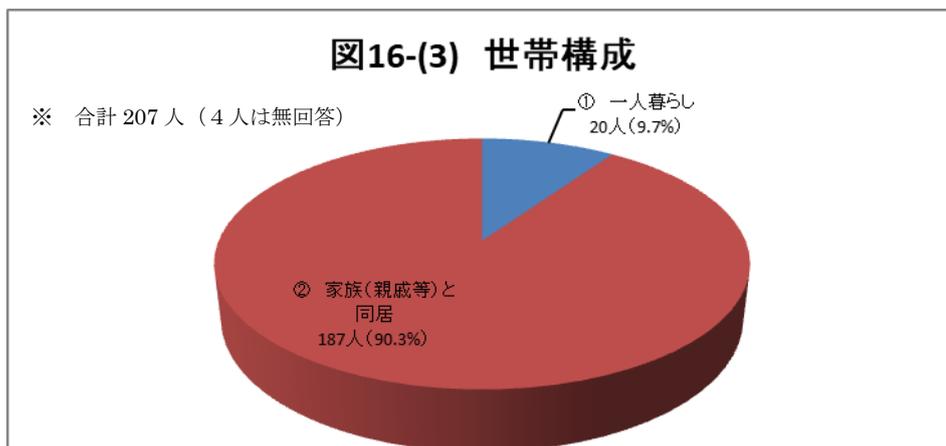
(2) 年齢

- ① 20～29 歳 ② 30～39 歳 ③ 40～49 歳 ④ 50～59 歳  
⑤ 60～69 歳 ⑥ 70 歳以上



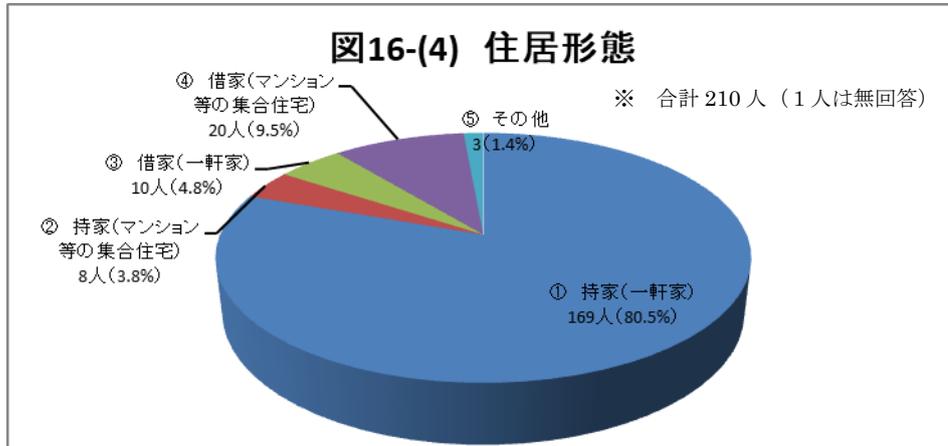
(3) 世帯構成

- ① ひとり暮らし ② 家族（親戚等）と同居



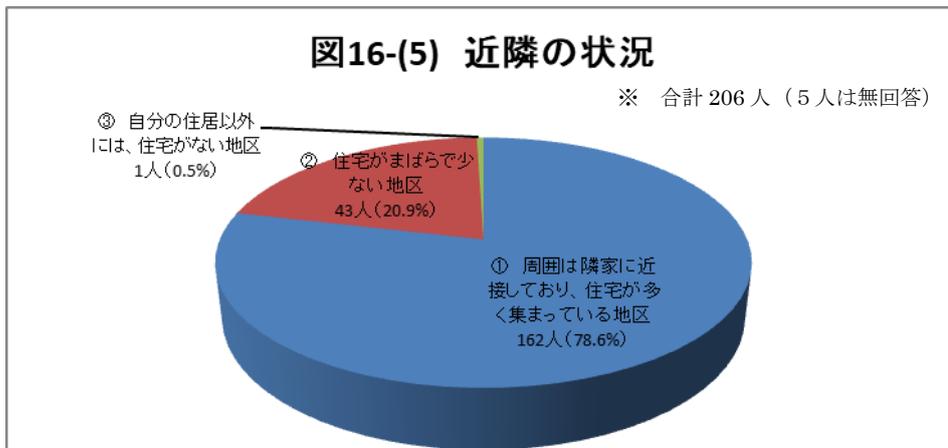
(4) 住居の形態

- ① 持家（一軒家） ② 持家（マンション等の集合住宅） ③ 借家（一軒家）  
④ 借家（アパート等の集合住宅） ⑤ その他



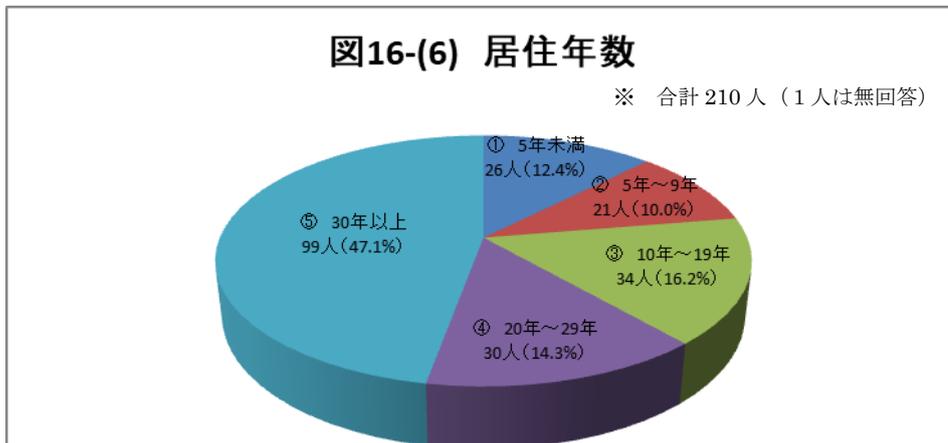
(5) 住居の近隣（徒歩で5分程度の範囲）の状況

- ① 周囲は隣家に近接しており、住宅が多く集まっている地区  
② 住宅がまばらで少ない地区  
③ 自分の住居以外には、住宅がない地区



(6) 住んでいる地域での居住年数（通算）

- ① 5年未満 ② 5年～9年 ③ 10年～19年 ④ 20年～29年 ⑤ 30年以上



(7) 日常の買物や通院の便利さ

- ① 便利で、特に困ることはない
- ② 便利な方だが、たまに困ることもある
- ③ やや不便で、困ることがある
- ④ 大変不便で、困る

